

全国学力・学習状況調査結果の活用に係る研究

－自他の読み方や考えを関係付ける力を育成する国語科単元構想の工夫－

総合支援課 小中学校班 長期研修員 三井 由香

1 主題設定の理由

平成19年度から実施されている全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」）は、静岡県の子童生徒の学力に関する成果と課題を明らかにしてきた。全国調査における結果について、「課題として考えられる内容」を「正答率においておおむね70%を下回るもの」（注1）とする文部科学省国立教育政策研究所の分析の基準に照らし合わせると、平成25年度全国調査小学校国語B「活用に関する調査」³二「2人の推薦文を比べて読み、読み方の違いをとらえる」問題の県の正答率は49.0%であり、複数の読み方や考えを比較したり、その特徴をつかんだりする力が弱いことが分かった。また、平成26年度全国調査小学校国語B³二「詩の解釈における着眼点の違いをとらえる」問題の県の正答率は54.7%であり、自分と他者の考えを比較して、共通点や相違点を整理する力に課題があることが分かった。

小学校学習指導要領は、第5・6学年「C読むこと」の指導事項「自分の考えの形成及び交流 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」（以下「自分の考えの形成及び交流」）について、それぞれの考えが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることにつなぐ重要性を示している。全国調査で課題が見られた力はいずれも、複数の読み方を比較し、その内容や共通点、相違点をとらえる力であり、この力を付ける指導方法を工夫する必要がある。特に、平成26年度全国調査の「詩の解釈における着眼点の違いをとらえる」問題は、「自分の考えの形成及び交流」に係るものとして設定されているため、この内容を指導事項に据えた単元学習を充実させなければならない。

全国調査に見られた課題については、昨年度担任した第6学年の学級でも感じられた。児童は、小学校低学年からの系統的な指導や言語活動を位置付けた授業によって、本や文章を主体的に読んだり、自分の考えを形成したりすることができるようになった。しかし、交流活動では、意見交換をすることはできても、他者の読み方を本文の内容や自分の読み方に照らし合わせて考えたり、その中で新しい発見をして、自分の考えに生かしたりすることが難しい児童もいた。このように、児童の、交流を通して自他の読み方や考えを関係付ける力は十分ではなかったと言える。

交流活動が単なる意見交換に留まったのは、教師が、交流活動を読み方や考えの「吟味・検討の場」としていなかったこと、交流する目的や意義を児童に伝えていなかったこと、児童が本気になったり、関心をもって進んで関わったりしようとする場を設定しなかったことが原因だと考えられる。よって、教師と児童が、交流活動を「友達と対話しながら互いの考えを比較し、自分の読み方を見直したりよりよくしたりする場である」と意識すること、「友達の考えを聞いて、そのよさを取り入れたい。」と、児童が必要感をもつよ

うな交流の場を設定することを、単元構想の中で十分に配慮する必要がある。さらに、交流活動の指導において、児童が自分の考えと他者の考えとを比較しながら、共通点や相違点を整理することができるような具体的な手立てを講じることも重要である。

このような理由から、自他の読み方や考えを関係付ける力を育成するために、上記の考えを取り入れた単元を構想することを主題として設定する。

2 研究の目的

「自分の考えの形成及び交流」に関する学習指導において、自他の読み方や考えを関係付ける力を育成できるような単元を構想・実践し、その成果を踏まえた「授業改善モデルプラン（評価問題を含めた単元構想）」を作成する。

3 研究の方法

(1) 実態調査

ア 研究実践校第5学年児童（以下「A小学校5年生児童」）を対象に、これまでの全国調査から「自他の読み方や考えを関係付ける力」に関する問題を取り上げて実施し、身に付いている力を把握する。

イ A小学校5年生児童を対象に、国語についての意識調査を実施し、実態を把握する。

(2) 実践

(1)を踏まえた単元構想を2単元分作成し、授業実践Ⅰ・Ⅱを行う。

(3) 検証

ア 評価問題の結果を分析し、単元構想の有効性を検証する。

イ アの結果を基に単元構想を修正し、「授業改善モデルプラン」を作成する。

4 研究の内容

(1) A小学校5年生児童の実態

ア 自他の読み方や考えを関係付ける力

A小学校5年生児童105人を対象に、平成26年度全国調査小学校国語B³を、実態調査として実施した。この問題は、詩の解釈において、自他の読み方や考えを関係付ける力をみるものである。

児童の正答率は57.6%（平成26年度、県正答率54.7%）であった。この力に関する指導を受けていない状態での正答率としては低くはないものの、文部科学省国立教育政策研究所の示す、課題であるかどうかの基準の70%には満たなかった。

イ 国語についての意識

A小学校5年生児童に、国語についての意識調査を質問紙にて行った（資料1）。

交流活動に関して、「自分の意見との共通点や違いを考えながら友達の話聞いていますか。」の質問で、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」（以下「当てはまる群」）と答えた児童の割合が83.7%と高かった（質問番号9）。また、友達の

意見のよさを自分の考えに取り入れたり生かしたりしようとする意識が高く（質問番号10「当てはまる群」が78.0%）、話し合いによって、分からないことが分かったり、自分の考えがはっきりしたりした経験のある児童が多かった（質問番号11「当てはまる群」が86.7%）。これらのことから、A小学校5年生児童は、自分の考えを広げ深めるためのよりよい交流活動を行うことのできる素地をもっていると考えられた。

| 番号 | 質問事項（交流活動に関わるもの） | 当てはまる | 当てはまる どちらかといえば | 当てはまらない どちらかといえば | 当てはまらない |
|----|---|-------|-------------------|---------------------|---------|
| 9 | 国語の授業で話し合うとき、自分の意見との共通点やちがいを考えながら、友達の話を聞いていますか。 | 48.1 | 35.6 | 15.3 | 1.0 |
| 10 | 国語の授業で友達と話し合いながら、友達の意見のよさを自分の考えに取り入れたり、生かしたりすることができていますか。 | 39.0 | 39.0 | 21.0 | 1.0 |
| 11 | 国語の授業で友達と話し合うことで、分からなかったことが分かったり、自分の考えがはっきりしたりすることがあります。 | 44.8 | 41.9 | 10.4 | 2.9 |

(2) 国語科授業づくりのポイントを押さえた単元構想

実態調査結果を踏まえ、静岡県授業づくり指針及び追加資料で示された手順（以下**ア**から**力**）に従って、「自分の考えの形成及び交流」を指導事項に据えた単元を構想した。

ア 学習状況の把握（同領域「C読むこと」のこれまでの学習状況をつかむ）

A小学校5年生児童は、第4学年のときに、第3・4学年「自分の考えの形成及び交流 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を指導事項に据えた単元を学習していた。

よって、「自分の考えの形成及び交流」に関する児童の実態を、次のように把握した。（身に付けてきた力→○ 身に付けさせたい力→◆）

○文章を読んだ一人一人の感じ方について違いがあることに気付く。

◆本を読んで感じたことを話し合い、友達の読み方のよさを取り入れて考えを広げ深める。（第5・6学年「C読むこと オ 自分の考えの形成及び交流」）

イ 身に付けさせたい力の設定と教材の特長の明確化（児童の実態、身に付けさせたい力、教材の特長を一致させる）

把握した児童の実態を、学習指導要領に示された指導事項に照らし合わせ、身に付けさせたい力を設定した。そして、力を付けるための学習指導に適した特長をもつ教材として、授業実践Ⅰでは宮沢賢治の作品、授業実践Ⅱでは椋鳩十の作品を選択した。その際、「教材文を教える」のではなく「教材文で教える」こととし、「教材文を読む能力」ではなく「学習指導要領に示された読む能力」を身に付けさせたい力として

押さえた（資料2）。

【資料2】児童の実態・身に付けさせたい力・教材の特長

| | | 児童の実態 | 身に付けさせたい力 | 教材の特長 |
|---------|---|--|--|---|
| 授業実践Ⅰ・Ⅱ | 度 関 国 心 語 ・ 意 欲 ・ 態 | (意識調査結果より) ・ 読書が好きな児童が多い。 ・ 長い文章を読むことに難しさを感じる児童がいる。 | 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりする態度を育てる。 | I：宮沢賢治作品…おもしろさやユーモアがあり、興味・関心をもちやすい。 II：椋鳩十作品…どの物語にも動物が登場し、興味・関心をもちやすい。 |
| 授業実践Ⅰ | C 第 読 5 む 5 こ 6 と 学 エ 年 | ・ 登場人物の性格や気持ちの変化について叙述を基に想像して読むことができる。 ・ 文章の魅力である、優れた叙述に着目して読んだ学習経験がない。 | 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、 優れた叙述について自分の考えをまとめること。 | ・ 様々な色、擬音語や擬態語、おもしろさを感じる言葉が多用されている。 ・ ユーモアを感じられる話の展開が見られる。 |
| | C 第 読 5 む 5 こ 6 と 学 オ 年 | ・ 文章を読んだ感じ方が人によって違うことが分かる。 ・ 優れた叙述や構成の工夫について意見を交流し、友達の読み方のよさを自分の考えに取り入れることができない。 | 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 | ・ 様々な表現の工夫が見られ、作品のおもしろさやよさについて考えをもちやすい。 |
| | と 伝 事 統 項 的 イ 言 (カ) 語 の 文 関 化 | ・ 優れた叙述や表現の工夫に着目しながら読み、作品のよさを味わった学習経験がない。 | 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 | ・ 様々な表現の工夫が見られ、そのおもしろさやよさをとらえやすい。 |
| 授業実践Ⅱ | C 第 読 5 む 5 こ 6 と 学 オ 年 | ・ 物語の優れた叙述に着目し、そのよさについて自分の考えをまとめることができる。 ・ 友達の読み方や感じ方を本文の内容に照らし合わせて理解した上で取り入れ、自分の考えを広げ深めることができない。 | 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 | ・ どの作品も人間と動物との関わりが描かれており、人物の心情を読むことで、作者の思いを感じることができる。 |
| | C 第 読 5 む 5 こ 6 と 学 カ 年 | ・ 目的に応じて、同一作者の複数の作品を比べて読んだ学習経験がない。 | 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 | ・ 複数の作品に、「動物への愛情」が貫かれており、共通点や類似点に着目して読むことで作者の思いに迫りやすい。 |
| | と 伝 事 統 項 的 イ 言 (カ) 語 の 文 関 化 | ・ 作品中の美しい言葉や描写に着目したり、そこに表された登場人物の心情を想像したりしながら読んだ学習経験が少ない。 | 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 | ・ 美しく壮大な自然が情景として描かれている。 |

注) ゴシック太字が、単元で身に付けさせたい力

ウ 言語活動の設定（児童の実態、身に付けさせたい力、教材の特長を連動させ、言語活動を具体化する）

学習指導要領解説では、第5・6学年「自分の考えの形成及び交流」について、「本や文章を読んで考えたことを発表し合い」とは、文学的な本や文章、説明的な本や文章など多様な本や文章を読み、目的に応じて報告や意見、解説や新聞の記事、

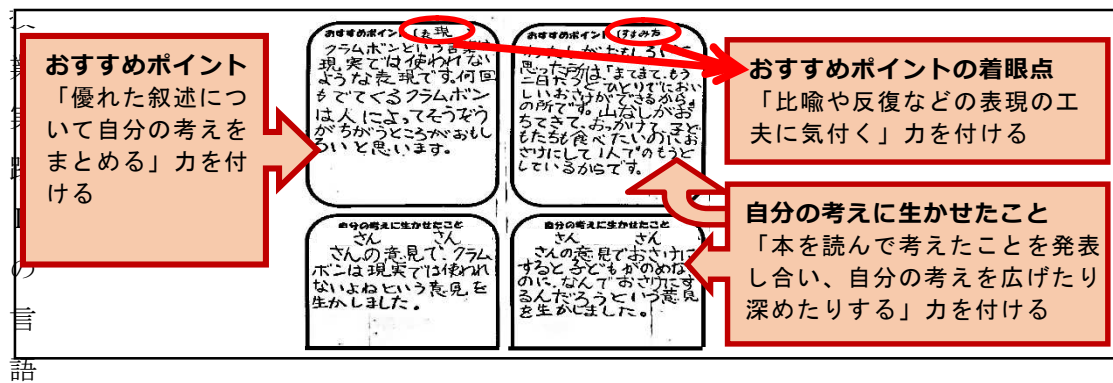
推薦などの文章として考えをまとめ発表し合うことである」(注2)とし、具体的な指導について、「学校や児童の実態に応じて、様々な言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが重要である」(注3)としている。そこで、児童の実態、身に付けさせたい力、教材の特長が一致するよう言語活動を具体化し、「宮沢賢治の「本のショーウインドウ」を作り、そのおもしろさやよさを紹介する」「椋鳩十作品の「読書座談会」を開き、作者の思いを考える」を設定した。また、設定した言語活動が、身に付けさせたい力を付けるためにふさわしいものとなるよう、言語活動を試行した(資料3)。

【資料3】教師が試行した「本のショーウインドウ」



授業実践Ⅰの言語活動に設定した「本のショーウインドウ」は、ベルリン・ブランデンブルグ州立学校・メディア研究所で開発された、本の推薦や紹介のためのツールである。本のショーウインドウを作りながら作品を読むことで、身に付けさせたい力が付くように、単元の指導事項と関連させて「あらすじ」や「おすすめポイント」などのコーナーなどを構成することができる。授業実践Ⅰでは、身に付けさせたい力と合わせ、「おすすめポイント」「自分の考えに生かしたこと」「おすすめポイントの着眼点」のコーナーを構成した(資料4)。そして、「おすすめポイント」と「自分の考えに生かしたこと」のコーナーを書くために、作品を読んだり友達と交流したりし、友達の読み方のよさを取り入れながら自分の考えを広げ深める力が付くようにした。

【資料4】ショーウインドウのコーナー(太字)とそのねらい



活動に設定した読書座談会は、児童が読んだ共通の本や同一作者の複数の本を取り上げ、その解釈について自由に発言できるグループ交流型の話し合い活動である。座談会の準備や座談会での話し合いを通して、友達の読み方のよさを取り入れながら「作者の思い」についての考えを広げ深めたり、視点を「作者の思い」に絞りながら比べて読んだりすることができる。授業実践Ⅱでは、身に付けさせたい力と合わせ、「山場の内容と山場と判断した理由」「最も感動した「とっておきの一文」と感じた作者の思い」を座談会で話す内容とした。また、座談会は音声による言語活動であるため、学習の跡を残したり、教師が支援・評価したりするために、ワークシ

ートに考えを書いておくようにした（資料5-①②）。そして、「最も感動した「とっておきの一文」と感じた作者の思い」について、座談会で話す内容を決めるために、友達と交流したり作品を読み直したりし、友達の読み方のよさを取り入れながら自分の考えを広げ深める力が付くようにした（資料5-②）。このように、ショーウィンドウのコーナーや座談会で話す内容に身に付けさせたい力が表出されるようにし、児童が単元全体を通して言語活動に段階的に取り組むことで力が付くことをねらった。これは、身に付けさせたい力と学習活動、目標と学習活動とのぶれをなくすことができ、指導項目を重点化させることにもつながった。

【資料5】読書座談会で話す内容（太字）を書いたワークシートとそのねらい

① **山場の内容と山場と判断した理由（点線囲み）**
 「語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ」ようにする
 ※山場について考える過程で、語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつようにした。

③ **最も感動した「とっておきの一文」と感じた作者の思い（点線囲み）**
 「本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする」力を付ける

エ 単元目標の設定（身に付けさせたい力に言語活動を組み込んで、より具体的な目標にする）

「自分の考えの形成及び交流」の指導における、単元目標を示す（資料6）。

【資料6】授業実践Ⅰ・Ⅱ「自分の考えの形成及び交流」の指導における単元目標

| | 身に付けさせたい力 | 言語活動 | 単元目標 |
|-------|--------------------------------------|-----------------------|--|
| 授業実践Ⅰ | 本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 | 宮沢賢治の「本のショーウィンドウ」を作る。 | 本や作品の推薦部分や推薦理由を明確にするために、優れた叙述や構成の工夫について意見を交流し、友達の読み方のよさを自分の考えに取り入れる。 |
| 授業実践Ⅱ | 本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 | 椋鳩十作品の「読書座談会」を開く。 | 作者の思いを考えるために、感動したことについて交流し、友達の読み方を本文に照らし合わせてとらえた上で、そのよさを自分の考えに取り入れ、広げたり深めたりする。 |

オ 単元展開の組立て（導入～展開～発展～評価の四部で構成する）

各単元を、導入部である第1次、教科書教材で学習する展開部としての第2次、自分が選んだ本・作品で付いた力を活用する発展部としての第3次、評価問題に取り組む第4次で構成した（資料7）（資料8）。展開部で読み方を学び、発展部で活用

できるように、第2次と第3次の学習活動をほぼ同じものとした。

【資料7】授業実践Ⅰの単元展開

| 次(時間数) | 評価規準 | 学習活動 | |
|--------|------|--|--|
| 授業実践Ⅰ | 第1次 | (1) ・『注文の多い料理店』の読み聞かせに関心をもって聞き、進んで感想を話し合っている。 〈国語への関心・意欲・態度〉 ※形成的評価とする 「耕し期間」(1週間程度) | ・言語活動の内容を知り学習の見通しをもつ。 ・『注文の多い料理店』の読み聞かせを聞き、感想を話し合う。 |
| | 第2次 | (4) 注文の多い料理店 ・人物描写や展開のおもしろさを感じながら、あらすじをまとめようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉 ・優れた叙述、巧みな場面展開や構成の工夫に着目して、話のおもしろさやよさについて自分の考えをもっている。 〈読む能力〉エ ・優れた叙述や構成の工夫について意見を交流し、友達の読み方のよさを自分の考えに取り入れている。 〈読む能力〉オ ・『注文の多い料理店』の中に見られる比喻や反復、擬態語や擬声語などの表現の工夫に気付いている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ケ)〉 | ・場面のできごとや若い紳士の行動を整理して、「あらすじ」のコーナーを書く。 ・おもしろさやよさを感じる言葉・表現などを整理して、「おすすめポイント」を絞る。 ・「おすすめポイント」のコーナーに書く自分の考えを広げ深めるために、グループで意見を交流する。 ・友達の読み方のよさを取り入れて、「おすすめポイント」「着眼点」「自分の考えに生かされたこと」のコーナーを書く。 |
| | 第3次 | (2) 選んだ作品 ・自分が選んだ本の優れた叙述、巧みな場面展開や構成の工夫に着目して、話のおもしろさやよさについて自分の考えをもっている。 〈読む能力〉エ ・自分が選んだ本の優れた叙述や構成の工夫について意見を交流し、友達の読み方のよさを自分の考えに取り入れている。 〈読む能力〉オ | ・自分が選んだ本のショーウィンドウを、第2次の『注文の多い料理店』のショーウィンドウと同じコーナー構成で作る。 |
| | 第4次 | (1) ・〈国語への関心・意欲・態度〉 ・〈読む能力〉(エ) ・〈読む能力〉(オ) ・〈言語についての知識・理解・技能イ(ケ)〉 | ・評価問題を解き、目的に応じて読む力を確認する。 ・単元の振り返りをする。 |

【資料8】授業実践Ⅱの単元展開 A…教科書教材、B…自分が選んだ本・作品

| 次(時間数) | 評価規準 | 学習活動 | |
|--------|------|--|---|
| 授業実践Ⅱ | 第1次 | (1) ・『大造じいさんとがん』を読んだ感想を話そうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉 ※形成的評価とする 「耕し期間」(1週間程度) | ・言語活動の内容を知り学習の見通しをもつ。 ・『大造じいさんとがん』を読んだ感想を話し合う。 |
| | 第2次 | (6) ・『大造じいさんとがん』と自分が選んだ作品の展開をつかみ、あらすじをまとめようとしている。〈国語への関心・意欲・態度〉 A ・大造じいさんの心情を表す描写に着目し、言葉の美しさを感じ取ろうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉 B ・自分が選んだ作品の主人公の心情を表す描写に着目し、言葉の美しさを感じ取っている。〈言語についての知識・理解・技能イ(カ)〉 A ・『大造じいさんとがん』の感動した叙述とそこから感じたことを交流し、友達の読み方のよさを取り入れながら、作者の思いについての自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉 B ・自分が選んだ作品の感動した叙述とそこから感じたことを交流し、友達の読み方のよさを取り入れながら、作者の思いについての自分の考えを広げたり深めたりしている。〈読む能力〉オ B ・「作者(椋鳩十)の思い」を考えるために、複数の作品の共通点や類似点に焦点を当てながら比べて読んでいる。 〈読む能力〉カ | ・場面の様子を簡潔にまとめながら表に整理し、それを基にあらすじを書く。 ・自分が選んだ山場の部分について、主人公の心情を表す描写を引用して心情曲線に表したり、情景描写に表現された心情を想像したりする。 ・感動した叙述を引用し、そこから感じたことや選んだ理由を書く。 ・同じ叙述、異なる叙述を選んだ友達と交流する。 ・友達の読み方のよさを取り入れ、最も感動した「とっておきの一文」を選び、作者の思いについての自分の考えをまとめる。 ・読書座談会で話し合った内容を参考にして4作品を比べて読み、作者の思いについて考える。 |
| | 第3次 | (1) ・〈国語への関心・意欲・態度〉 ・〈読む能力〉(オ) ・〈読む能力〉(カ) ・〈言語についての知識・理解・技能イ(カ)〉 | ・評価問題を解き、目的に応じて読む力を確認する。 ・単元の振り返りをする。 |
| | 第4次 | (1) ・〈国語への関心・意欲・態度〉 ・〈読む能力〉(オ) ・〈読む能力〉(カ) ・〈言語についての知識・理解・技能イ(カ)〉 | ・評価問題を解き、目的に応じて読む力を確認する。 ・単元の振り返りをする。 |

いずれの授業実践においても、交流活動を「自分の読み方や考えの吟味・検討の場」として位置付けた。授業実践Ⅰでは、本のショーウィンドウ「おすすめポイント」のコーナーを書く前の第4時と第7時に(資料7太字部分)、授業実践Ⅱでは、座談会で話す「最も感動した「とっておきの一文」と感じた作者の思い」についての

考えをワークシートに書く前の第6時に（資料8太字部分）交流活動を設定した。

カ 評価方法の決定

(7) 身に付けさせたい力を具体化した表出物やワークシート

授業実践Ⅰでは、言語活動のショーウインドウのコーナーを、身に付けさせたい力と一致させ、コーナーに書かれた内容を評価の対象とした。単元構想の時点で、「いつ、どのような方法、どのような基準で評価するのか」を明確に決めておくことが、指導と評価を一体化させることになると考えた。また、授業実践Ⅰ・Ⅱとも、学習活動を身に付けさせたい力と一致させ、評価もできるワークシートを作成した。

(4) 評価問題

各単元で身に付けた力を評価する問題を、全国調査の問題に準拠する形で作成した。評価問題の妥当性を保つため、出題形式や選択肢を全国調査に倣った。

(3) 授業実践における手立てや支援の特徴

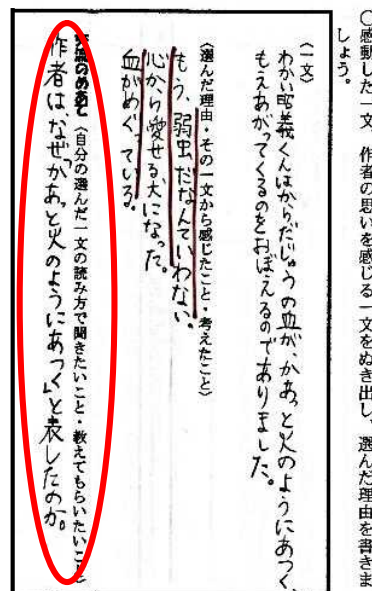
ア 効果的な交流場面の設定

授業実践Ⅰの第4時と第7時に設定した交流活動では、ショーウインドウに書く「おすすめポイント」を決めるために、作品のよさを更に味わい、推薦する理由を明らかにしていった。また、授業実践Ⅱの第6時に設定した交流活動では、読書座談会で話す内容を決めるために、友達の様々な読み方に触れて、作者の思いについての自分の考えをまとめていった。このように、推薦理由や推薦文の内容、作者の思いについての考えをはっきりさせるまでの思考過程の段階に交流活動を設けることで、「友達の読み方のよさを取り入れてみよう。」という意欲、「自分の読み方に不安があるから、みんなの考えを知りたい。」という目的意識や必要感が生まれると考えた。そして、この目的を明確にするために、それぞれの交流活動の前時には、児童が「交流のめあて」をもつ時間をとった（資料9）。

また、交流活動では、児童が作品のおもしろさやよさを感じた理由（授業実践Ⅰ）や児童が作品に感動した理由（授業実践Ⅱ）を話し合った。このことにより、児童が、自分の考えや判断の根拠を本文中の叙述に求めたり、作品を読み直しながら友達の読み方と自分の読み方を比較して吟味したりするようになることをねらった（資料10）。

交流活動では、友達の読み方や考えを「自分と同じもの」、「自分と違うもの」と分類しながら記録できるワークシートを用いた。書く内容や場所を決めることで、

【資料9】交流のめあて



【資料10】作品を読み直しながら交流する



自分の読み方と比較しながら聞き、共通点や相違点を整理することができると思った。そして、自分の考えに取り入れたい読み方のよさに気付くことを期待した。

イ 導入部（第1次）の工夫

第1次で、教師が試行したショーウインドウの実物や読書座談会の動画を見せたり、学習活動計画（資料11）を提示したりして、言語活動について説明し、学習の道筋を示した。また、言語活動と身に付けさせたい力とのつながりを伝え、児童自身が付く力を自覚して活動できるようにした。

【資料11】提示した学習活動計画

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| ① 自分選んだ本の「ショーウインドウ」を作る | ② 友達のおすすめポイントを取り入れる | ③ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ④ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑤ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑥ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑦ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑧ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑨ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑩ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑪ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑫ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑬ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑭ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑮ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑯ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑰ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑱ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑲ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ⑳ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉑ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉒ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉓ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉔ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉕ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉖ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉗ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉘ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉙ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉚ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉛ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉜ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉝ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉞ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㉟ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊱ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊲ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊳ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊴ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊵ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊶ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊷ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊸ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊹ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊺ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊻ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊼ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊽ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊾ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる | ㊿ 友達のおすすめポイントを聞き、自分の考えをまとめる |
|------------------------|---------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|

さらに、第1次の後、第2次に入るまで、1週間程度の時間を空けた。この期間を「耕し期間」（注4）とし、並行読書をしたり、自分の考えをもつ準備をしたりする期間とした。限られた時数の中で身に付けさせたい力を確実に付けるためには、家庭学習を活用した一人学びが不可欠であると考えた。耕し期間には、毎日取り組む音読や読書活動に、単元に関わる目的をもたせ、児童の主体性を引き出すようにした。

(4) 授業実践における成果

ア ショーウインドウやワークシートに見られる表れ

自他の読み方や考えを関係付ける力を、授業実践Ⅰでは第7時のショーウインドウで、授業実践Ⅱでは第6時のワークシートで評価した。

授業実践Ⅰ第7時は、自分が選んだ本の推薦部分や推薦理由を明確にするために、優れた叙述や構成の工夫について意見を交流し、友達の読み方のよさを取り入れながら自分の考えを広げたり深めたりしているかを評価した。授業実践Ⅱ第6時は、作者の思いについての自分の考えをまとめるために、最も感動した一文やそこから感じた作者の思いを交流し、友達の読み方のよさを取り入れながら自分の考えを広げたり深めたりしているかを評価した（資料12）。なお、「自分の考えを広げ深めた」表れには、「友達の意見と比較して、考えや根拠がより明確になった。」「同じ考えを聞き、自分の思いがより一層強くなった。」という変容も含めることとした。

| 授 業 実 践 | A判定（十分満足できる状況）基準 | % | B判定（おおむね満足できる状況）基準 | % |
|------------------|--|------|---|------|
| 実践Ⅰ | 自分の読み方との共通点や相違点に気づき、友達の読み方のよさを取り入れながら、考えの広がりや深まりのある「おすすめポイント」を書いている。 | 67.7 | 自分の読み方と違うことに気づき、友達の読み方のよさを取り入れながら、変容のある「おすすめポイント」を書いている。 | 32.3 |
| 実践Ⅱ | 自分の読み方との共通点や相違点に気づき、友達の読み方のよさを取り入れながら、作者の思いについて、広がりや深まりのある考えを書いている。 | 71.4 | 自分の読み方と違うことに気づき、友達の読み方のよさを取り入れながら、作者の思いについて、変容のある自分の考えを書いている。 | 28.6 |

は

全体の67.7%、授業実践Ⅱでは全体の71.4%の児童が、自分の読み方との共通点や

相違点を整理した上で友達の読み方のよさを取り入れて、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

自分の考えを広げ深めるために行った交流活動では、学習活動と身に付けさせたい力とを一致させたワークシートを用いた。B児のワークシート（資料13）を見ると、自分の読み方との共通点や相違点を分類しながら友達の意見を聞いて記録していたことが分かる。この「意見の聞き分け」が考えを広げ深めることにつながったと考えられる。また、C児のワークシート（資料14）には、交流活動の最中から、友達の意見を比較・検討しながら思考し、新たな解釈を生み出そうとしている様子が見られた。教材文の内容を「ほんとうにまぼろしだった。（①）」と感じていたC児は、自分の読み方にはなかったD児とE児の意見（②、③）を合わせて考え、「タイムスリップ？うらしまたろう（浦島太郎）？（④）」と、想像豊かに読んだことを記録していた。

このように、意見の聞き分けを助けるワークシートを用い、自分の考えを広げ深めるために聞くという目的を意識した上で行った交流活動は、各単元の目標を達成するために十分な意義をもつものとなった。

イ 評価問題の結果

自他の読み方や考えを関係付ける力をみる問題の正答率は、授業実践Ⅰで70.6%、授業実践Ⅱで71.8%であった。詩の解釈についての他者の読み方を分類し、どのような着眼点に基づくものかを明確にすることのできる児童や、詩の解釈について、自分の考えと他者の考えとを比較しながら読み方のよさをとらえ、それを取り入れて自分の考えをまとめることのできる児童が、単元学習前に比べ増加した（実態調査における正答率57.6%）。

ウ 事後調査の結果

授業実践Ⅰ・Ⅱの後、国語についての意識調査を行ったところ、5月の事前調査結果と比べ、児童の意識に変容が見られた。

交流活動の際、自分の意見との共通点や違いを考えながら友達の話を聞いている児童の割合が大きく増加した（資料15-①）。ワークシートに共通点や相違点を整理して書くために、自分の読み方と比較しながら聞こうとしていた様子が見られる。

【資料13】 B児のワークシート

【資料14】 C児のワークシート

| 友達の 名前 | 似ていること 同じようなこと | ちがっていること | 「なるほど」 「おもしろいな」 | その他か 分かったこと |
|-------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| D ちる | | | 食べられていた 白いぬかたす しんすのその後 | ② 顔がもたらがたのはしげ顔 |
| E る | 士はけいしん 思ひか ほんとうにまぼろし | | ③ 泣きX5 | ② 顔がもたらがたのはしげ顔 をみるよも まぼろしが。 |
| ヤ ① C | まぼろしだった ほんとうにまぼろし | 山猫は肉を食 下から猫も食 ていながらす | | ④ タイムスリッ うらしまた |

○意見交流会での友達の考えや読み方を聞き分けて、自分もまぼろしを聞き取りしよう

友達の意見のよさを自分の考えに取り入れたり生かしたりすることができていると答えた児童の割合も増加した（資料15-②）。自分の読み方と比較したり、友達の読み方の着眼点を考えながら聞いたりすることで、そのよさをとらえられるようになったのだと考えられる。

交流を通して、分からなかったことが分かったり、自分の考えがはっきりしたりすることがあると答えた児童の割合も増加した（資料15-③）。

授業実践Ⅰ・Ⅱにおける、自他の読み方や考えを関係付ける力を付けるための手立てである、教師と児童が交流活動についての意識を共有したこと、児童が必要感をもつ思考過程での交流としたこと、友達の読み方や考えを分類して記録できるワークシートを用いたことが、児童の交流活動への取り組み方を変え、自分の考えを広げ深めることにつながったと考えられる。

エ 教師の感想

授業を参観した教師が書いた感想には、活発な交流活動を通して友達の読み方のよさを理解し、自分の考えを広げ深める児童の姿を認めるものが多くあった（資料16）。この内容からも、授業実践Ⅰ・Ⅱで講じた手立てや支援により、目的を明確にしたよりよい交流活動が行われ、読み方や考えを広げ深めたことが分かった。また、導入部の工夫により、児童の意欲が高まり、主体性が引き出された。

【資料16】授業を参観した教師の感想（一部抜粋）

〈「交流活動についての意識の共有」「思考過程での交流」の効果〉

- ・自分の読み方や考えに対する、友達の考えや感想を聞こうとしていた。
- ・「交流のめあて」を示して、友達にアドバイスを求めている。

〈「理由の交流」の効果〉

- ・友達の読み方を理解するために、理由となる文章を何度も読み直していた。
- ・同じ本を選んだ友達と、読み方の違いや理由・根拠を話し合い、新しい発見をしていた。

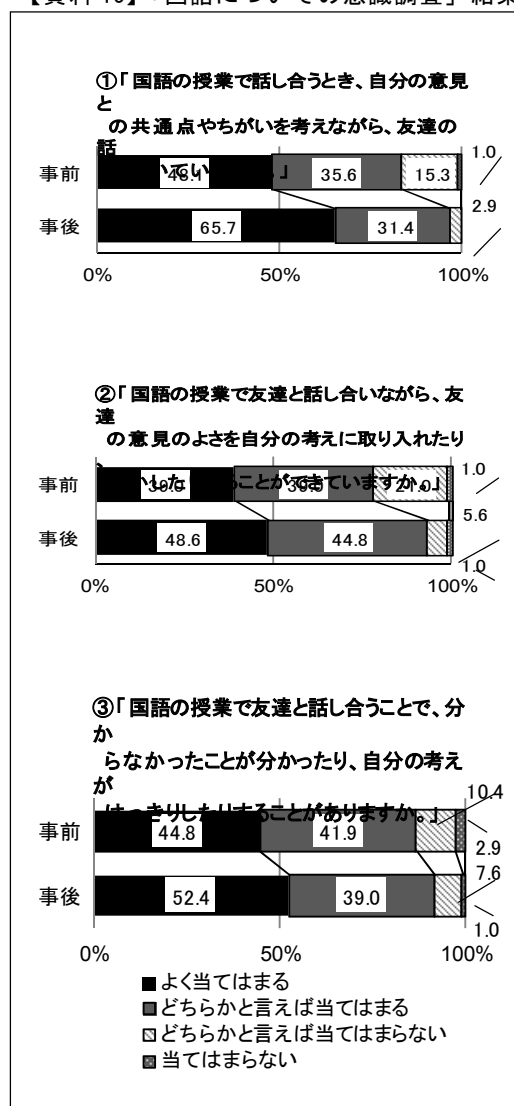
〈「意見の聞き分けを助けるワークシート」の効果〉

- ・友達の考えを文章化して明確にすることで、（その考えが）よく分かるようになった。
- ・友達の意見を聞き分けた話合いのメモを使って、考えを深める姿が見られた。

〈導入部の工夫（「学習の道筋を示す」「耕し期間・一人学び」）の効果〉

- ・何のための1時間かを分かっているので、すべての学習活動への意欲が非常に高かった。
- ・どの子も自分なりの考えをもって交流したため、活発に意見を交換できた。

【資料15】「国語についての意識調査」結果



オ 児童の振り返り

授業実践後の児童の振り返りでは、交流を通して様々な考えに触れられたよさや、交流を経験して感じたことが書かれていた(資料17)。これらが「自分の考えの形成及び交流」の内容に関わりがあることから、交流活動が単なる意見交換や発表会ではなく、読み方や考えを広げ深めるための有効な手段となったことがうかがえた。

| | |
|--|--|
| 資料 17】授 業実 践後 の振 り返 り 「交 流 のよ さ・交 流し て感 じた こと」 (一部 抜粋) | 【 〈友達の発言の聞き方〉 ・自分と友達の読み方を比べながら聞くことができた。 ・自分と読み方がちがっていても、「教えてもらおう。」という気持ちで聞いた。 〈自分の読み方との共通点や相違点の気付き〉 ・自分と友達の読み方のちがいがはっきりと分かった。 ・ワークシートに書くと、何が同じで何がちがうのかが自分でよく分かった。 〈自分の考えの明確化〉 ・話し合うことで、自分の考えがはっきりした。 ・話し合うと、考えがまとまってきて、書きたいことを決めることができた。 〈自分の疑問の解決・理解〉 ・読み方で分からなかったことを質問したら、みんなが意見を出してくれて、分かった。 ・みんなが同じようにもっていた疑問を、たくさん話し合って解決した。 〈友達の読み方やそのよさの理解〉 ・理由を何度も聞いたので、友達の意見のよさが分かった。 ・作品を読みながら話し合い、友達の読み方を理解することができた。 〈新たな読み方の気付き〉 ・友達とはちがう意見をぶつけ、話し合うことで、新しい考えを思い付いた。 ・自分とはちがう、いろいろな意見を聞いて、作品のよさを新たに見付けた。 〈読み方のよさを取り入れる方法の気付き〉 ・似ている意見や同じ意見を中心にまとめていくと、考えが深まった。 ・いくつかの意見を付けたしていくと、新しく、よい意見になっていった。 〈作品の読み方の深まり〉 ・作品の楽しみ方や作品の世界が広がったように感じた。 |
|--|--|

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

次の4点を意識した単元構想を工夫し、実践したことで、全国調査における本県児童の課題である「自他の読み方や考えを関係付ける力」が身に付く「授業改善モデルプラン」(注5)を作成することができた。

ア 交流活動が単なる意見交換や発表会に終わることのないよう、「友達と対話しながら自分の読み方を見直したりよりよくしたりする場」とすることを、教師と児童が意識すること。

イ 友達の読み方や考えを柔軟に受け入れられるよう、自分の考えがはっきりと決まっていない思考過程の段階で、児童の必要感のある交流活動を設けること。

ウ 友達の読み方のよさを理解し、自分の考えに取り入れられるよう、友達の意見を聞き分ける助けとなるワークシートを用いること。

エ 自分と友達の読み方や考えを比較して吟味することができるよう、理由や根拠を話し合うこと。

また、児童に学習の見通しをもたせたり、身に付けさせたい力を自覚させたりすることで、児童が主体的に学習に取り組めるようになり、交流を通じた学びを実感したことも大きな成果である。

この研究を通して、交流活動について、固まった考えや決まった意見の交換、単元学習の最後に行う発表会という従来のとらえ方から、思考過程の段階で行う、考えを広げ深めるための活動というとらえ方へと転換することの重要性が明らかになった。児童が他者の考えを柔軟に受け入れながら、多様でよりよい考えを生み出すために、他の単元・教科指導においても、このような交流活動を取り入れることが有効であると考えられる。

(2) 今後の研究課題

ア 効果的な交流活動の場を設定した授業実践を継続し、児童の「自他の考えを関係付ける力」の向上を図る。

イ 説明的な文章を教材文として選択した「自他の考えを関係付ける力」を育成する単元を構想し、実践する。

ウ 他教科において、効果的な交流活動の場を設定した授業実践を行い、よりよい考えを生み出すことができるかどうかを検証する。

注

- 1) 文部科学省 国立教育政策研究所『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～小学校編』, 文部科学省 国立教育政策研究所, 2012年, 3ページ.
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』, 文部科学省, 2008年, 90ページ.
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』, 文部科学省, 2008年, 7ページ.

- 4) 静岡県総合教育センター『平成26年度長期研修報告書』, 静岡県総合教育センター, 2015年, 46ページ.
- 5) 静岡県総合教育センター「静岡県総合教育センター(授業づくりデータベース)」(<http://www.center.shizuoka-c.ed.jp/>)

参考文献

- ・花田修一他著『実践国語教育320号』, 明治図書出版, 2013年.
- ・北尾倫彦監修『[平成23年度版] 観点別学習状況の評価規準と判定基準 [小学校国語]』, 図書文化社, 2011年.
- ・水戸部修治著『授業&評価パーフェクトガイド』, 明治図書出版, 2013年.
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』, 文部科学省, 2008年.
- ・文部科学省 国立教育政策研究所『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』, 教育出版株式会社, 2011年.
- ・文部科学省 国立教育政策研究所『全国学力・学習状況調査【小学校】解説資料』, 文部科学省 国立教育政策研究所, 2007~2014年.
- ・文部科学省 国立教育政策研究所『全国学力・学習状況調査【小学校】報告書』, 文部科学省 国立教育政策研究所, 2007~2014年.
- ・静岡県学力向上推進協議会『学力向上プロジェクト事業学力向上推進協議会報告書~静岡県の子ども「確かな学力」育成に向けて~』, 静岡県学力向上推進協議会, 2014年.
- ・静岡県総合教育センター『静岡県の授業づくり指針国語追加資料』, 静岡県総合教育センター, 2014年.